

復興祈る熊本城の砂像

鹿児島・吹上浜砂の祭典



鹿児島県南さつま市の「吹上浜砂の祭典」で、熊本地震からの復興を祈って作られた砂像

＝2日午後

初の開催を祝い、新元号にちなんだ作品も。26日までの開催で、実行委員会は約10万人の来場を見込んでいます。

新元号が発表された際に掲げられた額入りの「令和」の文字を模した高さ約1・8メートルの砂像前には長蛇の列ができた。

昨年に続き、崇城大（熊本市）の学生4人が熊本地震からの復興を祈って作った高さ約2・4メートルの砂像も登場。再建された熊本城の姿を子どもたちが想像し、絵日記に描く姿を表した。砂像横には義援金箱も置かれた。

鹿児島県南さつま市の海岸で国内外の芸術家や市民らが砂像を制作・披露する

恒例の「吹上浜砂の祭典」が開幕し、観光客でにぎわっている。天皇代替わり後